

愛知県芸術劇場中長期計画

はじめに

愛知芸術文化センター栄施設（以下「センター」という。）は、3つのホール等を有する愛知県芸術劇場の他に、美術館やアトライブラリーなどで構成される全国最大級の複合文化施設である。名古屋の中心である栄地区に立地していることもあり、1992年の開館以来、年間およそ200万人が来場する中部圏最大の芸術文化拠点として機能している。

センター開館時の理念をまとめた「愛知県新文化会館建設基本計画」（1986年3月）では、センターは「名古屋大都市圏、さらには中部圏の芸術文化の核となる施設」として、「県内はもちろん中部圏、全国の文化施設と情報化時代にふさわしい形でネットワーク化を進め」「世界的に優れた芸術文化に親しむ機会を県民に提供する」とともに「国内外に開かれた芸術文化交流の拠点となる施設を目指す」としている。また、「新文化会館を構成する各施設機能自体が本格化・専門化するにとどまらず、これらがそれぞれの領域を乗り越え高度に複合化して奥行きと幅のある新しい文化的相乗価値を生み出していく」ことも期待されている。

愛知芸術文化センターの一翼を担う愛知県芸術劇場では、このような理念のもと、世界レベルの舞台芸術公演が日々上演されるほか、「あいちトリエンナーレ」など、ジャンルを超え、複合的な芸術表現に挑むイベントも開催されてきた。また国内外の主要劇場、芸術系大学等とのネットワークを活かし、地域の芸術機関のハブ的な役割を果たしてきた。

こうした中で、2012年に新たに施行された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（以下「劇場法」という）では、劇場とは、「文化芸術を継承し、創造し、及び発信する場であり、人々が集い、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育み、人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点である」と定義された。限られた芸術愛好家のためだけの拠点ではなく、より多様な人々が集い・交流する機会を開く「新しい広場」としての役割を担うことが、より強く期待されることとなっている。

折しも、愛知県芸術劇場に指定管理者制度が導入され、公益財団法人愛知県文化振興事業団（以下「事業団」という）が新たに劇場運営を行うこ

ととなった。

今後、事業団は、劇場法の趣旨を十分に踏まえて劇場運営を行う必要があるが、一方で開館時の理念も色あせてはいないため、この計画の策定にあたっては、設立当初の理念を最大限踏まえることとした。そして、これまでの取り組みを継承、発展させ、蓄積された成果を再編集することで新しい価値を生み出し、地域に貢献していくことのできる劇場づくり、人づくりを進めていく。特に、人々の多様性や可能性を引き出す場として機能させていくために、文化芸術と人々を「つなぐ」ための取り組みを積極的に展開していく。そして人々の共感と参加を得ることにより「新しい広場」として、芸術的評価を追い求めるだけでなく、社会的評価も得ることのできる劇場づくりを目指す。

1 計画の位置づけ

事業団は、2014年度に愛知県芸術劇場等の指定管理者として指定され、「頭脳と意思を持った劇場づくり」を掲げ、これまで3年間劇場運営を行ってきた。この「愛知県芸術劇場中長期計画」は、これまでの運営経験なども踏まえ、指定管理者として、愛知県芸術劇場を今後、どのような方針のもとに運営していくか、まとめたものである。

本計画では、事業団が指定管理者として定められた2018年度までの2年を中期として、2019年度から始まる5年を長期として想定しているが、大規模改修工事の実施など、大きな節目を迎えている当面2年間の進むべき具体的な方向性を定めることを中心としつつ、次期指定管理期間にあたる2019年度から5年間の長期計画については、2018年度の時点で改めて見直すものとする。

なお、劇場の目指すべき方向性と劇場運営における日常業務を高い意識づけのもとで関連させ、実効性をより高めていくために、この計画の策定・検討にあたっては、すべての事業団職員が議論を重ねた。劇場は、その設立経緯や地域環境に加えて、何よりそこで働く職員によって、その劇場の特色が生まれる。この計画は、指定管理者としての劇場運営計画であり、職員自らの業務計画でもある。

2 劇場を取り巻く環境

(1) 大規模な改修工事とそれに伴う休館

愛知県芸術劇場は、高機能の3つの専用ホールを有し、年間60万人の観客が来場し、稼働率は約80%で推移している。劇場機能に加え、立地の良さなどの要因も加わり、民間事業者（在名の民間放送局等）主催の、多彩かつ世界水準の公演事業が開催されている。また、地元オーケストラやバレエ団など芸術団体の活動の場としても活用されている。これまでも、利用者による極めて旺盛な貸館需要があったが、近年は名古屋市内の大型の劇場施設の閉館、休館が相次いでいることから^{※1}、地域の利用者からの需要が引き続き高いレベルで継続することが見込まれる。

しかし当劇場は、今年で開館24年目を迎え、施設設備全般の老朽化が目立つようになったため、2016年度から2018年度までの3年度にわたって、大規模な改修工事を実施することとなっている。

この改修工事に伴い、各ホールは順次休館^{※2}することとなるが、長期

間にわたる休館は、施設利用者へ多大な影響を与えることとなる。丁寧な説明とともに、改修後のサービスを向上させることなどを通じ、施設利用者に再びご利用いただけるよう、継続的な働きかけが必要となる。

また、改修休館に伴う利用料収入減は施設運営だけではなく、自主事業の実施にも、影響を及ぼすことが想定される。休館期間中においても、その後も、継続的に文化芸術活動を行っていくために、必要な財源、人材を確保し、その影響を最小限に抑える必要がある。

※1

《閉館した劇場》

愛知厚生年金会館（2008年）、愛知県勤労会館（2010年）、名鉄ホール（2015年）

《休館中の劇場》

御園座（2013年より）

※2 休館期間

施設名	休館期間
小ホール	2016年11月1日（火） ～2017年10月13日（金）
コンサートホール	2017年8月1日（火） ～2018年11月25日（日）
大ホール（大・中リハーサル室を含む）	2018年4月1日（日） ～2019年4月22日（月）
アートスペースA～H（12階）	2017年11月28日（火） ～2018年7月22日（日）

（2）魅力ある地域づくりの必要性の高まり

2020年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される。オリンピックは、スポーツだけではなく文化の祭典^{※3}でもある。

これを踏まえ、文化プログラムとして、大会組織委員会による公式プログラム「東京2020参画(公認・応援)プログラム」と政府が推進するプログラム「beyond 2020プログラム^{※4}」が進められている。

また、文化庁は、組織委員会、関係省庁等と連携して、2016年秋から全国津々浦々で文化力プロジェクト（仮称）^{※5}を実施することとなっている。

さらに、2027年には、品川駅と名古屋駅を40分で結ぶ、中央リニア新幹線の開業が予定されている。

いずれのプロジェクトも、東京一極集中をさらに加速させるのではないかと懸念される一方、この地域の文化的基盤を整備することによって、文化的発信力を高めるチャンスにもなる。そのためには、その地域ならではの特色ある芸術文化活動を充実させることで、魅力ある地域づくりを進める必要がある。

※3 オリンピック憲章（2016年版）

オリンピズムの根本原則

- 1 オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。 その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。

第5章 オリンピック競技大会

39 文化プログラム

OCOG（組織委員会）は少なくともオリンピック村の開村から閉村までの期間、文化イベントのプログラムを催すものとする。 当該プログラムは IOC 理事会に提出し、事前に承認を得なければならない。

※4 Beyond2020 プログラム

政府が推進する文化プログラム。2020年以降へのレガシー創出に資する、全国津々浦々で実施されるイベント等が対象。

※5 文化カプロジェクト

文化庁は、「文化カプロジェクト（仮称）」について、以下の規模で実施することを目標としている。

「文化カプロジェクト（仮称）」の目標	数値目標
イベント数	20万件
参加アーティスト数	5万人
参加人数	5000万人

(3) 元気な市町村立劇場の存在

愛知県内には、魅力ある自主事業を実施する市町村立劇場が複数存在している。それらの劇場は、愛知県公立文化施設協議会などを通じて、新任職員向けの研修を積極的に企画運営するなど、ネットワークを積極的に深め、この地域全体の舞台芸術水準を向上させる活動を継続して行っている。

特に最近では、2014年に豊橋市芸術劇場 PLAT、翌2015年には東海市芸術劇場が相次いで開館しており、県内における市町村立劇場の活動は活発化している。

地域全体の文化芸術水準の向上を図っていくためには、このような市町村立劇場との連携は、必要不可欠である。愛知県芸術劇場は、情報共有、研修の共同実施、事業連携など、これまで以上に多方面での取り組みを通じて、各劇場との連携を積極的に深めるだけでなく、各劇場間の連携を促進、活性化するために必要なプラットフォームとしての機能を果たしていく必要がある。

3 劇場運営の基本方針

劇場法において、劇場とは「文化芸術を継承し、創造し、及び発信する場であり、人々が集い、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育み、人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点である」と定義されている。

このような劇場づくりを目指すために、今後、愛知県芸術劇場が果たすべき機能を「3つの場」として整理する。

すなわち、「鑑賞の場」として、世界レベルの舞台芸術を県民に提供するとともに、「創造の場」として、新しい創造の芽を育て、芸術の幅を広げ、広く発信していく。また、「交流の場」として、様々な人々が集い、交流することで新しい可能性を引き出す場として機能する劇場を目指す。

あわせて、このような機能を継続して発揮していくために、必要な劇場マネジメントについても、考え方を整理した。

(1) 「鑑賞の場」としての展開・方向性

- 職員・スタッフによる、ホスピタリティに溢れ、安心安全にご利用いただけるサービスを提供する。
- お客様の気持ちに寄り添って、継続的なサービス改善を行う
⇒ 多様な人に劇場に訪れていただき、「地域のシンボル」となることを目指す。

愛知県芸術劇場では、自主・貸館問わず、これまで数多くの世界レベルの優れた舞台芸術作品が上演され、県民が鑑賞する機会を提供してきた。いわゆる「名古屋とぼし」を防ぎ、地域の文化振興に大きな役割を果たしてきたこともあり、今後もこの役割を継続して果たしていくことが期待されている。

愛知県芸術劇場にとって、貸館業務は「地域のシンボル」として多様な人に足を運んでいただき、「この劇場があってよかった」「この地域に住んでよかった」と思ってもらえることを目指す取組みである。

そのために劇場の「ハード」だけではなく、職員の対応力やサービス力を磨き、ホスピタリティにあふれ、安心・安全にご利用いただける人的サービスの提供を行う。お客様の気持ちに寄り添って、日々サービスを改善していくことで、「選ばれる」劇場づくりを進める。

(2) 創造の場としての展開・方向性

- 劇場の特性などを活かしながら、世界レベルの舞台芸術を紹介するとともに、ジャンルの枠組みにこだわらない試みに積極的に挑戦する。
- 特徴あるラインナップを組み立て、多くの方々に劇場の魅力に触れていただく。
- 様々な連携による事業展開を積極的に図る。

地域の基幹劇場として、国内外の主要劇場、アーティスト等と連携し、世界レベルの舞台芸術を紹介するとともに、新しい創造の芽を育て、芸術の幅を広げていく取り組みを行う。設立当初から、オペラやクラシック音楽とともに、実験小劇場と位置付けられ、形式にとらわれない様々な空間を提供できる「小ホール」を中心として、ダンス、演劇、現代音楽などの「先駆的・実験的」な取り組みもなされてきた。この蓄積やこの劇場に集う専門性の高い人材を活かし、「同時代性=Contemporary」をキーワードとして、「同時代」の課題や問題意識を多彩な舞台芸術の展開を通じて表現することを目指すとともに、音楽、演劇、ダンスといった個別のジャンルの枠組みにこだわらない試みに積極的に挑戦する。(Borderless)

劇場の“強み”を活かすことのできる分野に重点的に取り組むとともに、多くの方々に劇場の魅力に触れていただくため、特徴あるラインナップを組み立てたり、様々な連携による事業展開を積極的に図っていく。

(3) 交流の場としての展開・方向性

- 国内外の文化芸術に関する情報、人材、資源が交流するプラットフォームとしての役割を果たし、新しい可能性を引き出す場として機能する。

様々な人々が集い、交流し、観光や多文化共生、教育、福祉などの社会的課題への貢献も含めて、新しい可能性を引き出す場として機能する劇場を目指す。そのためにも様々な人々の出会いを演出するとともに、県内の市町村劇場等との「劇場間連携プロジェクト」を推進して、国内外の文化芸術に関する情報、人材、資源が交流するプラットフォームとしての役割を果たし、地域発信力の向上につなげていく。

また、地域の将来を担う子どもたちを劇場に招待し、良質な舞台芸術に触れる機会を提供する「芸術と子ども7万人プロジェクト」を地域全体で支えていく仕組みづくりを進める。

(4) 劇場マネジメントの展開

○ 3C 基準に基づく、日常業務の実施

(1)～(3)で示した劇場づくりを進めるためには、劇場が目指す方向性を踏まえ、職員一人ひとりが高いモチベーションを持って目標に向かうとともに、それを支える様々な資源、財源などの経営基盤（劇場マネジメント）を確立する必要がある。そのためには、取り組みの継続性、変化への柔軟な対応、自主財源の獲得、専門人材の育成、劇場ファンの確保・拡大などの取り組みが求められ、限りある資源を効果的・効率的に配置する適切な「事業選択」が必要となる。

その選択を行うための基準として「3C基準」を掲げ、この共通理念のもと、日々の業務に取り組むこととする。

3 C 基準

CREATIVITY（創造）

我々でないとできない取り組みか。我々の強みを活かし、新しい価値を創ることができるのか

COLLABORATION（協働）

様々な人々が集い、交流し、新しい可能性やつながり、協働の輪を拓けているか。

CONTINUITY（継続）

取り組みの継続性は担保されているのか。次のストーリーは描けるか。

4 事業計画

(1) 鑑賞の場

愛知県芸術劇場は、その恵まれた立地環境や舞台設備だけではなく、劇場固有の舞台技術職員を配置するなど、全国最高級の様々な舞台公演を、日々実施していくために必要な体制を整えてきた。これまでの実績を活かし、体制をさらに充実していくことで、より多くの上質な公演が実施される「場」として「選ばれる」劇場を目指し、以下の取り組みを行う。

①お客様の気持ちに寄り添った劇場運営の実施

2014年度より、利用者や来場者^{※1}の声を直接お聞きすることができる職員として、劇場運営の表方には「支配人」、裏方には「舞台技術職員」を新たに配置している。また、劇場運営にかかわる協力会社の職員も、利用者や来場者の声を聞く機会が多い。

そこで、利用者や来場者からの要望等を定期的に情報共有し、必要な改善を検討する仕組みとして、毎月の「支配人会議」「劇場関係委託業者連絡調整会議」を今後も開催するとともに、「愛知県芸術劇場利用者満足度調査」も継続して実施する。こうした取り組みを通じて、日々の改善、改良を進めていくことで、利用者や来場者からの高い評価を維持・拡大していく劇場運営を目指す。

《数値目標》

項目	H26実績	H27実績	中期目標	長期目標
劇場（大・コン・小）稼働率	79.6%	83.3%	80%以上	
アールスペースA稼働率	40.1%	39.2%	45%	50%
利用者満足度調査評価平均点 ^{※2}	3.51	3.64	3.5以上	

※1 用語として「利用者」は劇場の施設利用者、「来場者」は公演等の鑑賞を目的とした来場者、として使い分けている。

※2 4点が最高点。

②スタッフサービスの向上

利用者や来場者により快適に劇場でお過ごしいただくために、職員のサービス向上に向け、職員研修を充実させるとともに、有資格者を計画的に育成、配置する。

また、「東南海トラフ地震」などに備え、「安心・安全」にご利用いただけるよう、職員による「防災プロジェクトチーム」を毎年設置し、継続的に「避難経路ツアー」等を開催することを通じて、被災時における職員対応力の向上を図る。

《数値目標》

項目	H26 実績	H27 実績	中期目標	長期目標
ア：利用者満足度調査評価平均点（職員に対する評価項目のみ）	3.51	3.64	3.5 以上	
イ：外部研修（OFF-JT）の実施	—	—	のべ80人	
ウ：普通救命講習 ^{※3} I修了者（プロパー職員分）	17人	17人	100%（全職員が修了）	
エ：自衛消防業務講習 ^{※4} 修了者	1人	1人	3人	10人
オ：避難経路ツアーの開催	年8回 開催	年2回 開催	年2回開催	
カ：防災PT参加率（プロパー職員分）	—	27%	50%	100%

※3 成人に対する心肺蘇生法、AEDの取扱い方法、異物除去要領、止血法を学ぶ講習

※4 2007年6月の消防法改正により、大規模建築物等については、自衛消防業務講習の修了者等を統括管理者及び本部隊の各班の班長として配置した自衛消防組織の設置が義務づけられた。

③計画的な施設維持、保全の実現

舞台技術職員の配置により、舞台を日常的にメンテナンスし、安心安全にご利用いただくコンディションの把握ができるようになった。今後もこの強みを活かし、日々の管理を適切に行うとともに、事故を未然に防ぐために、設置者である県に必要な修繕について情報提供や提案を行う。また改修工事後に計画的な修繕を実施できるよう、県に対し随時、提案・協力を行う。

④改修期間中の対応

職員は、劇場改修期間中に工事状況を把握し、改修工事者である県に対し、より適切な改修の実現に向け、必要な情報提供、提案等を行う。また施設利用者に対しても、改修工事の状況に応じた情報提供等を、県と相談の上、きめ細かく実施する。

(2) 創造の場

愛知県芸術劇場は、地域の基幹劇場として、国内外の主要劇場、アーティスト等と連携し、世界レベルの舞台芸術を紹介するとともに、「Contemporary」「Borderless」をキーワードとしながら、新しい創造の芽を育て、芸術の幅を広げていく取り組みを行う。

その実施にあたっては、「愛知県芸術劇場の特性を活かした事業展開」「特徴あるラインナップの組み立て」「様々な連携による事業展開」という3つの方向性を打ち出し、継続して取り組む。

《愛知県芸術劇場の特性を活かした事業展開》

愛知県芸術劇場は開館以来 20 年以上にわたり、この劇場のホール特性などを活かしながら、自主事業を行ってきた。これまで培ってきたノウハウ、ネットワークといった“強み”を活かすことのできる分野に重点的に取り組む。

①先駆的・現代的なダンス公演の実施

愛知県芸術劇場では、開館から 20 年来、ダンス公演に力を入れており、そのノウハウ、ネットワークは全国最高級を誇っている。

この強みを活かし、当劇場のプロデュース作品については、積極的に国内外に発信していくことで、「ダンスなら愛知県芸術劇場」といわれるブランドの確立を目指す。

また、世界トップレベルの海外カンパニー等を招聘しながら、世界を牽引する「ダンス」作品の公演を大ホール等において実施する。

項目	H26実績	H27実績	中期目標	長期目標
愛知県芸術劇場外で上演される当劇場プロデュース作品の公演数 ※ダンス公演分	—	—	毎年 4 公演以上	

②オペラ公演の実施

大ホールは、国内屈指のオペラハウスとして設置され、開館以来、数多くのオペラ公演が上演されてきた。このホールの特色を活かしオペラ公演を今後も積極的に開催していく。

とくに自主事業においては、日本トップレベルの劇場・実演団体と連携しながら、質の高いオペラ公演を実施していく。

また、こどもを対象としたオペラの普及事業や愛知県芸術劇場合唱団の活動を通じた人材育成など、幅広い取り組みを行うことを通じて、“オペラ”の魅力、可能性を拓げるための取り組みを行う。

項目	H26実績	H27実績	中期目標	長期目標
大ホール公演入場者率 ※ダンス・オペラ公演分	73.2%	67.9%	65%	70%

③オルガン公演の実施

コンサートホールには、日本最大級のパイプオルガンが設置されており、「オルガンDAY」「クリスマスはオルガンだ！」など、これまで定期的
に開催してきた「オルガンコンサート」は、開館以来、常に高い人気を博
してきた。

今後もパイプオルガンの魅力に触れていただけるよう、継続的に実施す
る。

項目	H26実績	H27実績	中期目標	長期目標
オルガンコンサート 公演数	3公演	4公演	毎年3公演以上	

《特徴あるラインナップの組み立て》

魅力的な舞台芸術の作品を、一人でも多くの方々に見ていただくための
工夫として、事業展開の“特徴づけ”を徹底させる。

まず毎年、夏休みに開催する家族を対象とした「ファミリー・プログラム」
と秋に主に社会人を対象とし、多彩なジャンルの作品を上演する「愛知芸
文フェス」という2つのフェスティバルを実施する。それぞれの時期に、
異なる対象者にふさわしい舞台公演を集中開催することで「祝祭感」を醸
成するとともに、多くの方々に劇場の魅力に触れていただく“きっかけ”
をつくる。

また小ホールで、年間を通じて切れ目なく「先駆的・実験的」な作品を
上演する「ミニセレ」の実施を通じて、劇場の特色を強く打ち出すととも
に、料金設定等も工夫することで、未来の観客層も拓げていく。

④ファミリープログラムの実施

夏休みに、家族と一緒に劇場での体験を共有することで、家族の絆をま
すます深めていただくとともに、“劇場の楽しさ”を感じてもらおう機会と
する。

こどもを通じて「初めて」家族で劇場に足を運んでいただくため、教育
関係団体や、企業、NPOなどと幅広く協力関係を構築し、イベントの周
知を積極的に図っていく。

⑤愛知芸文フェスの実施

主に社会人を対象として、愛知芸術文化センターの誕生日である10月

30 日前後 2 か月程度の期間に、オペラ、音楽、ダンス、演劇、美術など多彩なジャンルの作品を上演する。

この実施に関しては、企業や労働関係団体などの協力を得ながら、ワークライフバランスの一環として舞台鑑賞を位置づける取組みを進めていただくなど、一人でも多くの社会人が劇場に足を運ぶきっかけとなるように働きかけていく。

《数値目標④⑤》

項目	H26実績	H27実績	中期目標	長期目標
新規来場者率(フェスティバル公演)	—	—	ファミリー 芸文フェス	30% 20%
入場者率(フェスティバル公演)	—	66%	70%	75%

⑥ミニセレ (Mini Theater Selection) の実施

ジャンルの枠組みにこだわらない試みに積極的に挑戦する作品を、年間を通じて上演する「ミニセレ」については、今後も形式にとらわれない様々な空間を提供できる「小ホール」を舞台として実施する。

「ミニセレ」は、新しい芸術表現の担い手として、アーティストを発掘する機会として活用する。加えて、25 歳以下をターゲットとした低額な料金の設定や、交流イベントの開催などを通じて、未来の鑑賞者層も広げていく。

《数値目標》

項目	H26実績	H27実績	中期目標	長期目標
ミニセレ (年 3 回以上来場者率)	—	—	30%	
U25 (25 歳以下) 来場者率	—	—	30%	

《様々な連携による事業展開》

愛知県芸術劇場は、その事業を展開していくうえで、国内外の主要劇場やアーティスト等はもちろん、様々な関係団体との連携を積極的に図り、より良い「創造」活動へとつなげていくとともに、幅広い層の方々に支えられる劇場づくりを目指す。

⑦「芸術と子ども 7 万人プロジェクト」の実施

愛知県の小中学生は、一学年あたり約 7 万人いる。この児童・生徒を対象として、国内外の主要劇場やアーティストと連携しながら、良質な作品

を提供し、より豊かな劇場体験をしていただく「芸術と子ども7万人プロジェクト」（以下「7万人プロジェクト」）を実施する。

⑧あいちトリエンナーレとの連携

2010年度より、3年に1度開催される国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」については、パフォーミングアーツやオペラ部門の企画を愛知県芸術劇場のプロデューサーが担当し、世界一流の作品、アーティストをこの地域へ紹介するとともに、トリエンナーレ後も引き続き、関係性を保つことで、世界とこの地域を結ぶ窓口の役割を果たす。

⑨民間連携の実施

愛知県芸術劇場では、民間事業者（在名の民間放送局等）主催の、多彩かつ世界水準に及ぶ舞台芸術公演が日々、開催されている。極めて優れた舞台芸術の実施に際し、これまでも優先的に劇場利用を認めてきたが、これに加え、今後は必要に応じ共同制作も行い、一つでも多くの優れた舞台芸術を地域に提供していく。

《数値目標（共通）》

項目	H26実績	H27実績	中期目標	長期目標
自主事業来場者の満足度（%）	92%	95%	95%	

（3）交流の場

愛知県芸術劇場は、様々な人々が集い、交流することを通じて、それぞれの新しい可能性を引き出す場として機能する劇場を目指す。そして国内外の文化芸術に関する情報、人材、資源が交流するプラットフォームとしての役割を果たし、地域発信力の向上につなげていく。

「芸術と子ども7万人プロジェクト」や研修などの個々の事業も、そのための機会の一つであると位置づけ、積極的に取り組んでいく。

①「芸術と子ども7万人プロジェクト」の実施

「7万人プロジェクト」の第1歩として、2015年度より学校単位で子どもたちを招待する「学校公演」をスタートさせており、今後も継続していく。

このプロジェクトをきっかけとして、県内の劇場や企業、教育機関などとの連携を深め、児童生徒に対する鑑賞機会等の拡充・拡大を、地域全体で支えていける仕組みづくりを進めていく。

②劇場間連携の推進

愛知県内の劇場においては、これまでも愛知県公立文化施設協議会主催の劇場新任職員向けセミナーの実施などを通じ、情報共有や人材養成、ネットワークの形成がある程度進んでいる。

このような取り組みを継続して進めるとともに、2014年度より開催している「舞台芸術人材養成ラボ」に、学生、劇場職員、行政や企業、施設利用者やNPOなど、多様な人々が集い交流する場としての機能を付加していくことを進め、様々な可能性を引き出す場づくりを進める。

また自主事業の実施についても、県内市町村立劇場と連携し実施することを通じて、制作ノウハウを共有するとともに、県内各地で開催することを通じ、普段は愛知県芸術劇場に足を運ばない方々に鑑賞していただく機会を増やす。

《数値目標》

項目	H26実績	H27実績	中期目標	長期目標
舞台芸術人材養成ラボ参加者数（のべ人数）	—	574	毎年600人以上	
舞台芸術人材養成ラボ参加者数（劇場職員以外：のべ人数）	—	46	毎年50人以上	毎年100人以上
県内市町村との連携事業数	—	—	毎年3事業以上	毎年6事業以上

③職員のネットワーク力向上

交流の場として劇場が機能するために一番必要とされるのが、個々の職員がネットワーク力を持つことである。愛知県芸術劇場は、職員のネットワーク力形成のために、研修への派遣や先進事例の視察、学会等への参加など、必要な機会の提供に努めるとともに、多様性を尊重し、違いの中から新しい価値を見出す力「つなぐ力」を、劇場人材の専門性として求めていく。

④人々を劇場につなぐ取り組みの実施

愛知県芸術劇場は、名古屋の中心である「栄地区」に立地しており、日々、多くの人々が立ち寄りやすい場所にある。ホール以外のパブリックスペースなどを使い、愛知県美術館等と連携しながら、体験型インスタレーション、バックヤードツアー、リーディングカフェなどユニークなイベントを随時開催することで、多様な芸術表現の魅力の一端に触れ、楽しんでいただく機会を提供する。

また公演当日に極めて安価なチケットを発売する「チャレンジシート」の販売拡大、職員を学校等へ派遣する出前講座、企業協賛による無料招待枠の拡充など、幅広い取り組みの実施を図っていく。

(4) 劇場マネジメントの実施

安定的かつ発展的に劇場運営を展開していくためには、優秀な人材や財源を確保するなど、経営基盤の充実を図ることが重要であり、当面は以下の取り組みを進めていく。

① 主財源の拡充

入場料収入を伸ばすため、チケット購入団体の新規獲得を積極的に図るなど、自主財源の確保、拡充を行う。営業活動を推進していく専門人材を「広報・マーケティンググループ」に配置し、取り組みをすすめていく。

《数値目標》

項目	H26実績	H27実績	中期目標	長期目標
公演事業費に関する入場料収入の割合	51%	47%	50%	55%
チケット購入団体数(累積) [*]	1団体	2団体	8団体	18団体

※チケット購入数が年間20枚以上の実績をもつ団体に限る。

② 安定顧客層の確保

2016年より新設した新会員制度「愛知県芸術劇場メンバーズ」の会員数を、魅力ある事業ラインナップの展開等を通じて増やす。

また、企業会員のあり方も「①自主財源の拡充」の一環として、今後検討を進める。

《数値目標》

項目	H27実績	中期目標	長期目標
愛知県芸術劇場メンバーズの会員数	1,769人	5,000人	10,000人

③ 基礎データのアーカイブ化とその活用

劇場のマネジメントで必要となる事業予測を行うための根拠データを2018年度までに整備する。販売実績データや顧客データについては2015年度より導入した「チケットシステム」などを活用し、今後、基礎データの抽出、分析方法について、検討を進める。また、事業検証した時に出された改善、反省の記録なども共有データとして活用できる環境を整える。

《数値目標》

項目	H26実績	H27実績	中期目標	長期目標
基礎データのアーカイブ化	—	—	整備終了	活用

④プロジェクトチームの活用

突発的に起こった事例への対応や長期的な視点に基づく劇場の取組みなど、日常業務の枠を離れて検討すべき課題も多い。このような課題検討を職員育成の機会ととらえ、必要に応じ、随時プロジェクトチームを設置する。職員を有効活用するとともに、日常業務とは異なる業務に従事することで、劇場全体を視野に入れる経験を積ませる研修としての位置づけも持たせる。

⑤3C基準に基づく事業の立案・検証

自主制作事業は、「企画会議」や「評価会議」を通じて、その実施に関する検討を行っている。

それぞれの会議時において、「3C基準」に基づく効果を検討及び検証することを通じ、より優先度の高い事業実施を行っていく。

⑥文化庁重点支援劇場への採択

文化庁「劇場・音楽堂等活性化事業」では、我が国の舞台芸術の水準を向上させる直接的な牽引力となる施設として、全国15施設の劇場・音楽堂等を選定し、年間を通して活動を支援する「特別支援事業」を実施している。

愛知県芸術劇場は、この特別支援事業に採択されることで、全国の舞台芸術を牽引する一流の劇場としての評価を確立するとともに、5年間継続して、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業などに対する総合的支援を受けることで、計画的かつ安定的に事業実施を行っていくことを目指す。